令和7年度 直江地区社会福祉協議会の活動報告

今年度も直江地区社会福祉協議会の活動にご理解ご協力いただきありがとうございました。地域の皆様からいただいた出雲市社会福祉協議会会費と共同募金によって、今年度も下表のとおり福祉や健康づくり等の地域活動を行うことができました。各団体の活動はボランティアの皆様に支えられています。興味ある方はぜひそれぞれの活動にご協力いただきたいと思います。お気軽にコミセンまで問い合わせください。

来年度も直江地区社会福祉協議会の活動にご理解ご支援をお願いいたします。

直江子育てサロン
“つーちゃん”

団体名	活動内容
ふれあいサロン	毎月第４水曜日、高齢者を対象に、相互交流や社会参加の場としてレクリエーションや季節の行事、茶話会などを行いました。
ひまわり喫茶	ひまわりグループが、地域交流の場として２回開催しました。抹茶やコーヒーなどとお菓子の提供、合わせてミニコンサートや手打ちそばの試食などの企画もありました。毎回約30人程度の参加がありました。
ピノキオの会	８月７日、小学生を対象に、恒例の夏休み日帰りキャンプを行いました。今年は、宍道湖グリーンパーク・ゴビウスで野鳥観察や宍道湖の自然を学びました。
直江絵手紙の会	小学生対象の夏休み子ども絵手紙教室、高齢者絵手紙教室を行いました。作品は、“ふれあいレター”として一人暮らしの方にお送りしました。
直江地区 健康づくりの会	なおえ健康ウォークや健康フェアなどの健康イベント・健康講座の開催、文化祭での啓発展示などを多様な健康づくり活動を実施しました。
直江地区遺族会	９月23日に、興林寺にて直江戦没者慰霊祭を行いました。
直江一式飾り 保存会	・９月24・25日、斐川西中学校１年生の一式飾り制作体験を行いました。今年の題材は中学生が考えた「しまねっこ」で、作品は町内各所を巡回展示しています。 ・10月17日、中部小学校４年生のミニ一式飾り体験を行いました。作品は来年のなおえ夏祭りで展示します。 ・10月19日開催の直江地区文化祭では、親子ミニ飾り体験を開催しました。
直江子育てサロン “つーちゃん”	今年度から子育て世代の支援の場として実施している活動で、今年は４回開催しました。ベビーマッサージやお昼寝アート、クリスマス会など、若い親さん同士が気軽に交流したり子育てについての情報を交換したりする場になっています。
直江地区 社会福祉協議会	直江地区文化祭（10/19）でぜんざいのふるまいをしました。民生委員児童委員協議会の皆さんに運営していただき大変お世話になりました。

直江は奈良時代から弱者救済の地区だった!

正倉院（※）古文書正集第31巻に「出雲国大税賑給歴名帳（いずもこくたいぜいしんごうれきめいちょう）」（739年）という文書が収録されています。「賑給」とは、国家の慶事や疫病流行、飢饉などに際して、高齢者、身寄りのない子ども、生活貧窮者、被災者の救済を目的に米・布・綿・塩などを支給することをいいます。この歴名帳に、直江地区（奈良時代は漆治郷（しつじのさと）といっていました）で、「80歳以上の高齢者４人、妻のいない60歳以上の男性と父母のいない16歳以下の子ども各３人、夫のいない50歳以上の女性37人に、約１月分の食料に相当する稲穀（とうこく）５斗（稲もみ41.5ℓ）を支給」との記述があります。奈良時代は若くして亡くなる方が多く、平均寿命30歳前後という試算もあり、50代を超えれば高齢者だったようです。この資料から、奈良時代からすでに行政により出雲国直江で社会的弱者を救済する福祉的制度が実施されていたことがわかります。直江は福祉先進地だったといえるのかもしれません。

※奈良時代に作られた東大寺の宝物庫。皇室や寺院の宝物を長く大切に保管してきた場所

直江地区自治協会だより

令和8年3月19日
直江地区自治協会 広報部
事務局:直江コミュニティセンター
TEL:72-5282　Fax:72-5286

直江地区自治協会では、本年度も「地域防災の充実」「生活環境の整備の促進」「地域住民の親睦並びに情報共有」の三つの基本方針のもと、地域の安全・安心、そして未来につながるまちづくりのため、様々な活動を進めてまいりました。

まず「地域防災の充実」では、災害に備える体制づくりを進めるため、直江地区災害対策委員会(6月・11月)を開催し、例年のハザードマップや避難プランの確認に加え、東本町自治会で行われた防災研修についての発表もあり、災害発生時の行動についての意識を高める事が出来ました。また、出雲市災害対策本部長会(6月)や出雲市防災安全課との意見交換会(2月)では、地域の危険箇所や避難体制について意見を交わし、地域の防災力向上に向けた課題の共有、行政との連携の強化を図りました。

次に「生活環境の整備の促進」では、安全で暮らしやすい地域の実現のために、JR 直江駅整備検討委員会(5月・7月・9月)や斐川行政センター庁舎等整備検討委員会(7月)に継続して参画しました。また、斐川地域自治協会連合会の一員として、災害対策の観点からも急がれる直江コミュニティセンターの環境整備や間樋川の改修、中部小学校への通学路の整備など、出雲市長を初めとする関係各機関への要望活動にも参加し、地域全体の課題解決に向け一体となって取り組んでいます。

なおえ夏祭り

直江地区文化祭

とんどさん

そして「地域住民の親睦並びに情報共有」では、実行委員会のメンバーとして参画した「なおえ夏祭り」（7月）や「直江地区文化祭」（10月）、まちづくり交流部の事業として協賛した「とんどさん」など、地域行事の運営に積極的に関わり、住民同士が顔を合わせ、交流できる場づくりに努めました。また、まちづくり懇談会部では、ブラジル人が多く在籍する人材派遣事業所との意見交換会（11月・1月）を行い、地域の働く環境や交流の在り方など、今後ますます進む多様化への対応について多くの学びを得ることが出来ました。さらに、広報部の活動として「自治協会だより」や地域情報誌「アルモニア（ポルトガル語訳入り）」を発行し、地域の情報をわかりやすく届けることにも力を入れました。

また、年間を通じて「直江地区挨拶デー」を毎月実施し、地域の明るい雰囲気づくりに努めるとともに、自治協会三役会や役員会を定期的に開催し、地域運営の円滑化を図ってまいりました。

この一年、希薄になりがちな人や地域とのつながりの「大切さ」、そして、つながることの「楽しさ」を、少しでも実感していただけるよう心がけながら、様々な活動に取り組んでまいりました。**これらを恙なく実施することができたのは、地域の皆さまの温かいご理解とご協力のおかげです。**皆様の行事への参加、日々の見守り、そして地域を思う気持ちが、直江地区の力となっています。心より感謝申しあげます。

新年度も、地域の声を大切にしながら「住みよい直江のまちづくり」に向けて取り組みを続けてまいります。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。